

# 美術館ニュース

群馬の森

no. 192  
2023 4/1

## 杉浦非水 時代をひらくデザイン

2023年4月22日[土]ー6月18日[日]

※会期中、一部展示替えを行います。

前期：4月22日～5月21日  
後期：5月23日～6月18日

会場：展示室1

休館日：毎週月曜日（ただし5月1日は開館）

開館時間：午前9時30分ー午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般900(720)円、大高生450(360)円

\*（ ）内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

主催：群馬県立近代美術館、毎日新聞社

協賛：ニューカラー写真印刷株式会社

特別協力：株式会社三越伊勢丹ホールディングス、東京国立近代美術館

企画協力：愛媛県美術館

杉浦非水(1876-1965)は明治から昭和にかけて活躍した日本のグラフィックデザインの第一人者です。

愛媛県松山市に生まれた非水は、東京美術学校日本画選科在学中に洋画家の黒田清輝と知り合い、黒田がフランスから持ち帰った書籍や資料を目にしたことから、図案家の道へ進みます。書籍や雑誌の装丁をはじめ、当時、流行の発信地であった三越呉服店の図案部で宣伝ポスターやPR誌のデザインを手がけ、そのブランドイメージ創出に貢献しました。さらに、図案集の出版やデザイン雑誌の刊行などを通して、日本におけるデザイン意識の普及や教育に大きな役割を果たしました。

日本人の美的感覚に、アール・ヌーヴォーやウィーン分離派といった西洋の造形要素を取り入れた非水のデザインは、レトロな魅力とともに時を経ても古びない新鮮さをあわせ持ち、現代の私たちの目をとらえます。

本展は、ポスターや図案、本や雑誌の装丁などのデザインの仕事、スケッチや『非水百花譜』などの作品、そしてデザインの源となった資料までも含めた約300点により、非水の生涯にわたる功績を紹介します。

### 【関連事業】

●講演会「図案家・杉浦非水と日本の消費文化」

講師：神野由紀（関東学院大学人間共生学部教授）

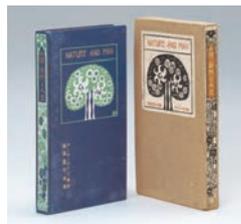
5月27日(土)午後2時ー3時30分 会場：2F講堂 定員100名 申込不要、参加無料

○学芸員による作品解説会

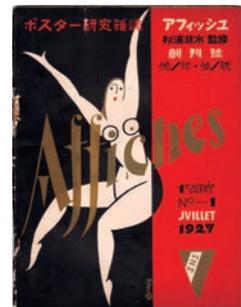
5月10日(水)、6月3日(土) 午後2時ー3時 会場：展示室1 申込不要、要観覧料



1



2



3



4

- 1 《三越呉服店 春の新柄陳列会》1914年 愛媛県美術館蔵
- 2 徳富蘆花著（アーサー・ロイド、フォン・ファーロット、小野秀太郎英訳）『NATURE AND MAN 英訳 自然と人生』1913年 個人蔵
- 3 『アフィッシュ』第一年第一号 1927年 愛媛県美術館蔵
- 4 『非水百花譜』（昭和版）より 1929-34年 愛媛県美術館蔵

## 「アートのための場所づくり」補遺

田中龍也

4月9日まで開催している展覧会「アートのための場所づくり」では、1970年代から90年代にかけて群馬県内で活動した5つのアートスペース——煥乎堂ギャラリー、ぐんまアートセンター、コンセプトスペース、アートハウス、北関東造形美術館——をとりあげ、関連する作品や資料を展示しています。これら5つのスペースは、継続した活動によって群馬という地方に活動拠点を作り出し、県内の作家たちに大きな影響を与えてきました。それぞれの成り立ちや活動の展開、実施してきた展覧会等を振り返ることで、この時代の県内の美術状況のある程度把握することができますが、もちろんこの他にも数多くの画廊や展示スペースが存在し、特に1980年代には様々な展示活動が活発に行われていました。それらをより広い視野から調査し記録することは、今後の課題と言えます。

ここでは、本展で取り上げることができなかったスペースの中から、80年代末に意欲的な活動を展開した「STUDIO & EXHIBIT SPACE RASENDO」について、展覧会図録でも少しふれましたが、簡単に紹介しておきたいと思います。

RASENDOは、1988年、丸尾康弘(1956-)、前島芳隆(1957-)、上杉一道(1958-)の3人の作家が、高崎にある上杉所有の鉄工所跡地を使って立ち上げたスペースで、3人のグループ展「1988/10/8～23」でオープンし、翌年からは「SPIRITUAL REJOICE」と銘打った企画を90年までに3回開催しています。これは作品展示と舞踏やコンサートを組み合わせたもので、第1回「89/5/13～21」は加藤アキラ(1937-)、第2回「89/10/28～11/5(11/12まで延長)」はスタン・アンダソン(1947-2015)、第3回「90/5/12～20」は内堀進(1933-)によるインスタレーションの中で、それぞれ田中泯による舞踏、ギターとパーカッションによる即興演奏、ジャズトリオによるコンサートが行われました。これらの公演は有料で行われ、チケット収入で運営費を賄うことを目指していました。

展示スペースとしてのRASENDOは短命に終わりましたが、天井高4m、床面積約80㎡の大空間を使い、既存の形式にとらわれない展覧会を提示したことで、群馬の美術史に名を刻んだと言えるでしょう。



1



2



3

- 1 「SPIRITUAL REJOICE」  
田中泯による舞踏、RASENDO、1989年
  - 2 「SPIRITUAL REJOICE 2」  
チラシ、RASENDO、1989年
  - 3 「SPIRITUAL REJOICE 2」  
スタン・アンダソン展示風景、RASENDO、1989年
- [資料提供：上杉一道（3点とも）]

## T o p i c s

## 鈴木ヒラク スタジオ訪問記

田中龍也

鈴木ヒラク(1978-)は線を描く行為＝ドローイングを「発掘」になぞらえ、平面、彫刻、映像、インスタレーション、パフォーマンスなど多彩な手法を駆使してその表現の可能性を拡張し、近年ますます評価を高めているアーティストです。当館では一昨年、公募展「群馬青年ビエンナーレ2021」の審査員を務めていただきましたが、今年9月からは個展「今日の発掘<sup>きょう</sup>」の開催を予定しています[会期：2023年9月16日(土)～12月19日(火)]。

2月22日、東京都町田市にある作家のスタジオを訪問し、できあがったばかりの作品を拝見しながら、展覧会の打ち合わせを行いました。現代美術棟の展示室5を使った宇宙時代の到来を感じさせる大規模な新作インスタレーション、展示室4では近作シリーズを一堂に並べ洞窟内の壁画を思わせる展示、そして通路部分にはドローイングをよりダイレクトに体感させるインスタレーションと、展示構成から設営方法まで、具体的に詰めていきました。会期中のイベントについてもライブ・ドローイングなど様々な案を検討しています。詳細は追ってお知らせしますので、どうぞご期待ください。



## [展示室 2・6]

## ■日本と西洋の近代美術 I 4/22～6/18

当館の収蔵品より、印象派から 20 世紀前半の西洋近代絵画ならびに彫刻、群馬ゆかりの作家や明治から昭和を代表する作家たちによる日本近代洋画を展示します。



牛島憲之《五月の水門》  
1950年

## [展示室 3]

## ■現代の美術 I 4/22～6/18

20 世紀後半から現代までの多様な美術作品を紹介します。



モーリス・ルイス《ダレット・サフ》  
1958-59年

## [展示室 4]

## ■特集 ジョルジュ・ルオー 4/22～5/21

## ■写真特集 5/23～6/18

「特集 ジョルジュ・ルオー」では、版画集『ミセレーレ』と『流れる星のサーカス』より抜粋をご紹介します。ルオーの眼を通すと、時に愚かであさましく、また滑稽でもあり、あるいは敬虔で崇高な人々の姿が浮かび上がります。「写真特集」では、石内都、オノデラユキ、春木麻衣子、片山真理など、現在活躍中の作家による写真作品を特集します。

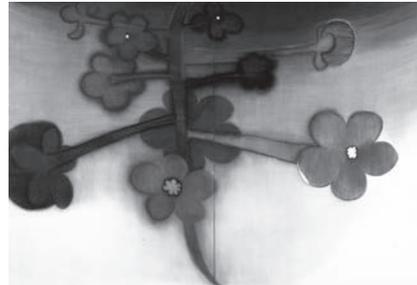


ジョルジュ・ルオー  
『流れる星のサーカス』より  
「黒いピエロ」  
1935年

## [展示室 5]

## ■Plants 植物をえがく 4/22～6/18

室内に活けた花、路上で見かける植物から、緑に覆われた山や森の景観まで、私たちの周囲は植物に満ちています。色とかたちの応酬に還元された花の発するメッセージや、さわさわと風を受け光をきらめかせる葉叢の動きなど、「植物」をキーワードに集めた多彩な作品を展示します。



押江千衣子《あまいにおい》 1999年

## [展示室 7 (山種記念館)]

## ■鳥づくし 4/22～5/21

## ■四方田草炎の素描 5/23～6/18

「鳥づくし」では、収蔵品の中から鳥が描かれた多彩な作品を、「四方田草炎の素描」では、精緻に描写した動植物や霧積山中の炭小屋で生活しながら描いた風景などから、対象の本質へと迫る草炎の素描の魅力をご紹介します。



岸浪百舛居《雨呼ぶ鳥晴呼ぶ鳥》 1935年

現在、友の会では令和 5 年度の会員を募集しています。友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内 5 つの美術館の観覧料が減免になるなど、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。

## ■会員の種類と年会費 [有効期間は 4/1～翌年 3/31]

一般会員 2,000 円 / 学生会員 1,000 円

家族会員 [同居 2 人分] 3,000 円 [3 人以上は 1 人につき 1,000 円追加]

個人賛助会員 [一口] 10,000 円 / 法人賛助会員 [一口] 20,000 円

## ■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間 2 回無料、ほか半額]

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

## ■主な事業

\* 展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、講演会やコンサート等を開催。

\* 会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

## ◆ミュージアムショップより

\* 展覧会カタログの通信販売を行っております。申込方法など詳しくは美術館 HP の利用案内>ショップ>主要商品>ショップ通信販売をご確認ください。

\* 本年 2 月からクレジット・電子マネー決済をご利用いただけるようになりました。

## 友の会だより



「杉浦非水」展カタログ

**本** 作品は、明治末の1906年、16歳でアメリカに渡り画家となった国吉康雄(1889-1953)の初期作品である。決然たる様子で小さな木馬にまたがろうと足をあげる子供と、それを保護者然とした厳しい面持ちで上から見おろす女性。裏庭でくつろぐ乳母(ナニー)と子供の姿は当時の中流以上の家庭によくみられた日常の情景であろう。茶系統や黒の色調と白を対比させる色彩のコントラスト、遠近法によらない不思議にゆがんだ空間描写、人物や植物のデフォルメされた形態表現が画面に独特のリズムを与えている。駆け出しの画家だった国吉は、画家・コレクター・パトロン・出版者など数々の肩書きを持つハミルトン・イースター・フィールド(1873-1922)の援助を受けており、1920年代はじめの作品には、自身の日本の記憶に加え、アメリカのフォーク・アート、印象派やキュビズムなどのヨーロッパ美術、そして日本美術など多岐にわたるフィールドのコレクションからの影響を見てとることができる。また、同時期に制作した子供を主題とするいくつかの作品では、子供を単に愛らしいだけではなく、意思を持った独立した存在として捉えている。本作品では、画面を支配するように大きく描かれた乳母に対して木馬にまたがるという大きな動作で対抗しているようにも見える子供の姿が両者の心理的関係性を浮き彫りにしており、国吉の優れた観察者としての一面があらわになっている。

本作品の制作から5年後の1929年、国吉はニューヨーク近代美術館の「19人の現代アメリカ画家」展に出品するなど合衆国を代表する作家のひとりとして認められることになる。2015年にはスミソニアン博物館群に属するアメリカ美術館で本格的な回顧展が開催され、再評価されている。



国吉康雄《乳母と子供》  
1924年 油彩・カンヴァス  
61.3×51.5cm

## 次回展覧会案内

オーストラリアの大地と空とそこに生きる私たち

# Dean Bowen ディーン・ボーエン 展

2023年7月8日[土]ー8月27日[日]

**会場:** 展示室1

**休館日:** 毎週月曜日(7月17日、8月14日は開館)、7月18日(火)

**観覧料:** 一般 800(640)円、大高生 400(320)円

\* ( ) 内は20名以上の団体割引料金

\* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

**主催:** 群馬県立近代美術館

**特別協力:** ギャラリー宮脇

**企画協力:** アートプランニングレイ

**後援:** オーストラリア大使館

**協力:** 日本航空



AUSTRALIAN EMBASSY TOKYO  
在日オーストラリア大使館



ディーン・ボーエン 《ラブバード(つがいの鳥)》  
2022年 油彩、板  
30.0×61.0cm 作家蔵  
Dean Bowen 《Love Birds》  
Collection of the Artist

**オ**ーストラリアのメルボルンを活動の拠点とするディーン・ボーエン(1957-)は、「アール・ブリュット」で知られるジャン・デュビュッフェに影響を受け、オーストラリアの風土と自然を、その自由な想像力とユーモアで素朴ながら力強く表現するアーティストです。版画、油彩、水彩、ブロンズ彫刻、廃材アサンブラージュ、アーティストブック(ポートフォリオ)など幅広い表現を追求しています。作品には、オーストラリア固有のコアラやウォンバットをはじめ、犬、猫、鳥や昆虫といった生き物と、旅を連想させる自動車や飛行機、船といった乗り物、そして人々や街並みがよく登場します。作品約150点とともに、可愛らしいモチーフにこめられた自然や命へのまなざしをお楽しみください。

